

(問) 年度末に工事が多いのは予算消化のためではありませんか？

(答) 年度末に工事が多いのは、予算消化のためではなく、工事を完了させなければならない期限が決められているためやむを得ず行っているものです。

公共工事については、その効果が早期に発現できるよう、計画的な事業執行に努めていますが、事業実施段階では用地交渉や地元調整に予定外に時間を要したり、天候不順によりやむを得ず工事期間を延長せざるを得ない場合があります。

また、補助事業では国の予算配分が遅れると工事の着手時期が遅れる場合もあります。

自治体の予算は、原則その年度内に執行しなければならない、いわゆる単年度予算制度であるため、工事も年度内に完了する必要がありますが、工事の準備が遅れれば遅れるほど、年度末に工事が集中してしまうこととなります。これは、単年度予算制度の弊害と言えるかもしれません。

県では、そのような弊害を少しでも無くすため、ゼロ県債(翌年度に予定している工事を県議会の承認を得て、年度内に発注を前倒しして行うもの)を活用するなど、工事時期の平準化に取り組んでいます。

今後も、設計や用地取得、工事等といったそれぞれの段階を計画的に、また効率的に進め、年度末に工事が集中しないように努めていきます。